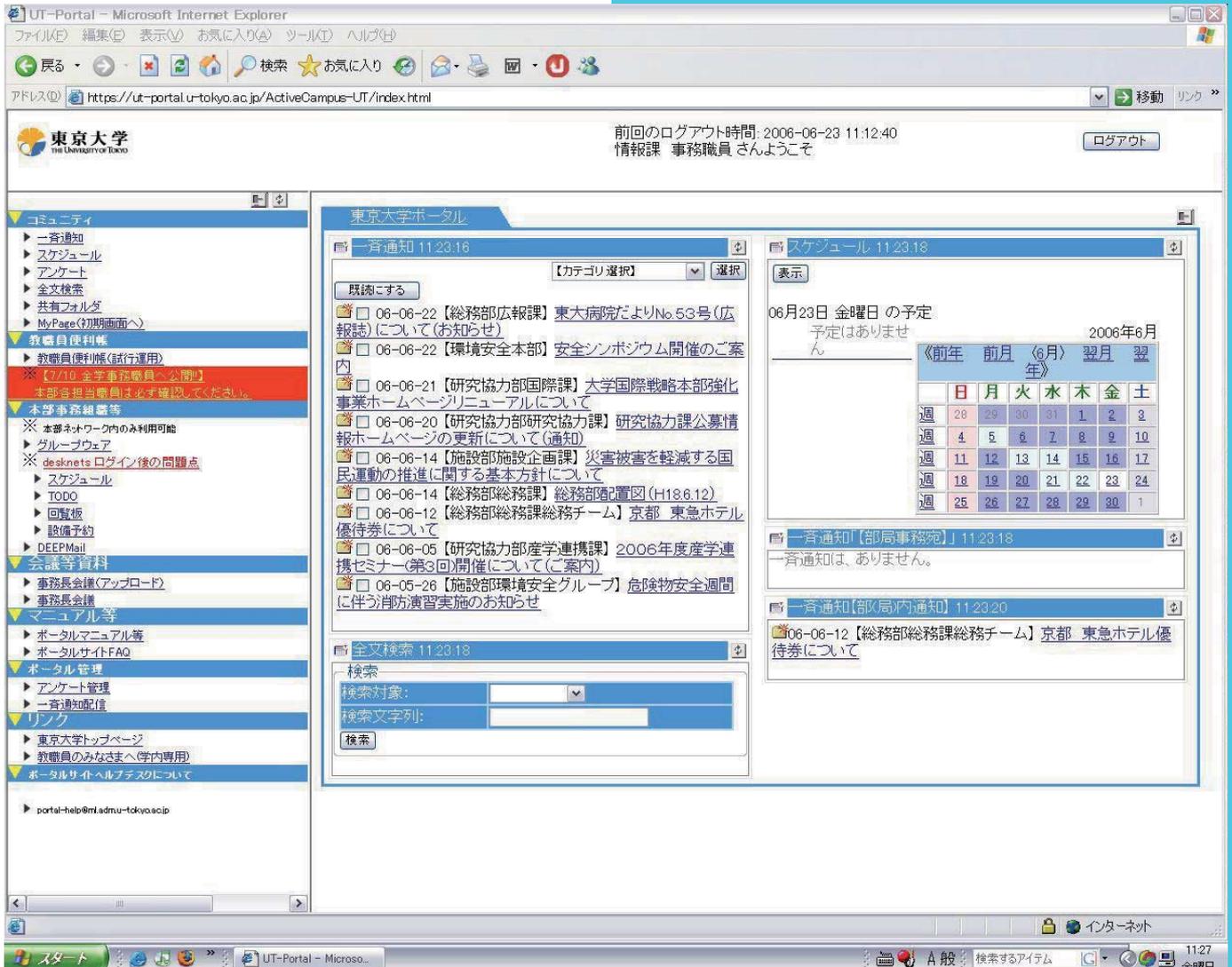


学内広報

for communication across the UT



特別記事：

環境安全本部 安全は教育研究の大前提

東京大学ポータルサイト (UT-Portal)

テスト運用開始！

安全は教育研究の大前提

東京大学に確かな安全をもたらすために、日々、さまざまな活動を続けている環境安全本部。皆さんはご存知ですか？この特別記事では、社会における「大学の信頼性」をも大きく左右する環境安全本部の活動について、ご紹介します。

はじめに

昨年7月4日(月)に発生した、農学生命科学研究科のリサーチフェロー、山下高広氏の潜水作業中の水難死亡事故から一年たちました。安全の確保が教育研究の大前提であることは大学においても例外ではありません。東京大学は毎年7月4日を「安全の日」と定め、このような事故の再発防止と教育研究における安全確保に注力することとしています。東京大学の教育研究の安全確保に関する今年度の主なイベントは右記の通りです。

<主なイベント>

- 7月 4日(火) 東京大学の「安全の日」
13:00~17:30 安全シンポジウム(場所:弥生講堂)
- 7月 6日(木) 総長安全衛生パトロール
- 7月11日(火) 普通救命講習
- 7月26日(水) 潜水実技講習

<研究室での重点活動>

- 薬品類の適正な取扱いの徹底
- ガラス器具による障害事故の絶滅
- 野外活動での熱中症防止

環境安全本部は、安全・衛生・環境分野を担当しており、関連組織と協働して、教職員及び学生に対する安全教育や安全確保(化学物質の適正管理等を含む)等と共に、社会の信頼確保と地域との共存に取り組んでいます。

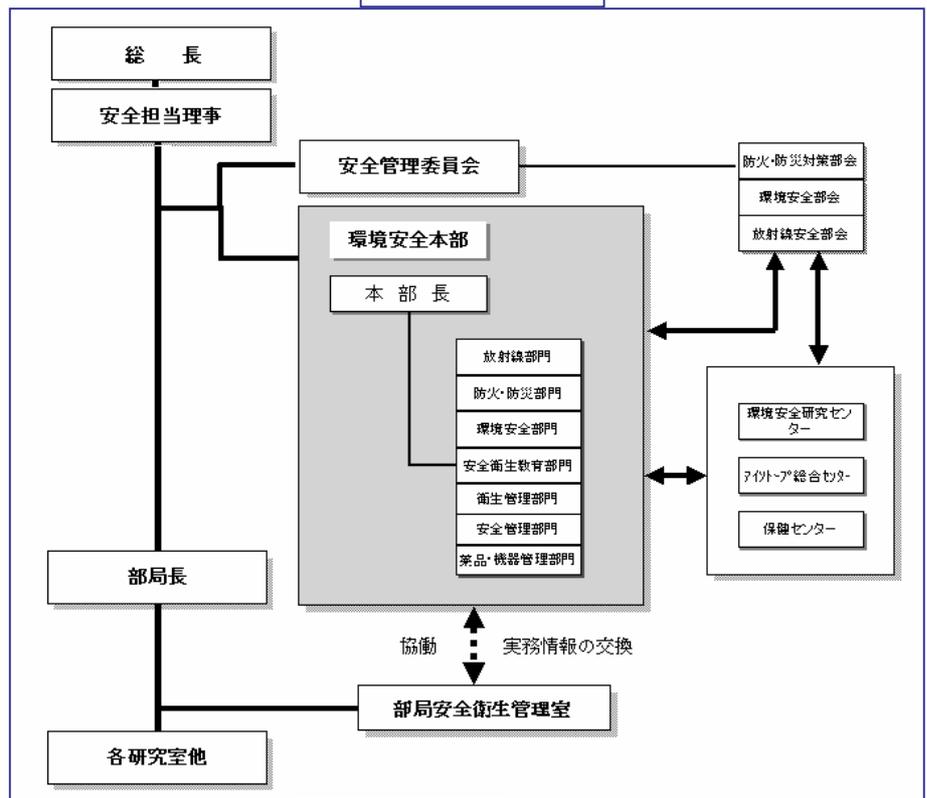
組織体制表



産業医巡視



講習会風景



環境安全本部の活動

環境安全本部の活動は、「放射線部門」、「防火・防災部門」、「環境安全部門」、「安全衛生教育部門」、「衛生管理部門」、「安全管理部門」、「薬品・機器管理部門」の7部門に大別できます。これらを各部局の安全衛生管理室と協働しつつ進めています。

重点的な安全衛生管理活動	
1	安全衛生管理計画の策定、法規制遵守の徹底
2	事故災害データの収集・分析・フィードバック・再発防止、安全衛生教育・講習会の実施、諸規程の整備及びその周知
3	各種危険作業・作業環境の管理、化学物質管理、危険有害物質（アスベスト等）の取り扱い、高圧ガス・危険作業の管理
4	安全衛生パトロール、衛生管理者巡視（毎週）、産業医巡視（毎月）
5	健康診断の支援
6	防火・防災体制の整備、消防訓練・救命救急講習の実施
7	緊急時対策、緊急時対応の体制整備、緊急用資材の確保
8	フィールドワーク安全対策、事故防止指針他各種指針の作成
9	安全衛生マニュアルの作成、各種教育資料の作成
10	環境報告書の作成、社会と連携しての防災・環境保全活動
11	教育研究マネジメントシステムの導入



救命講習

※ 学内で発生した事故災害データの収集・分析、部局へのフィードバック作業は安全確保のため必要です。事故災害が発生したときは、軽重に関係なく速やかにご報告ください。

※ 講習会・説明会には、担当業務についての安全意識を自ら向上・啓発させるためにも、必ず受講してください。

日常業務における安全衛生の注意点について

実験系・非実験系職場に共通した安全衛生の注意点を下記に示します。

転倒による負傷、VDTによる頸肩腕症候群、重量物による腰痛等の危険性は実験系・非実験系職場を問わず存在しています。職場の安全衛生の基本は、机上や周囲の整理整頓と正しい作業姿勢の確保です。また、パソコン等のVDT機器の使用では、作業休止時間を取って、作業が連続1時間を超えないようにすることが必要です。その他、つまずきや引っ掛けの原因となる電源コードの未整頓、漏電・発火の原因となるタコ足配線やプラグの抜けかけも改善が必要です。また、書類の入ったダンボール箱等は意外と重量がありますので、正しい姿勢で持ち上げる、複数人で運ぶ、荷物を持って腰をひねらない等の腰痛予防に気をつける必要があります。

おわりに

環境安全本部では全学へのお知らせ・連絡先をホームページに掲載しています。ご質問・ご相談等があるときは、是非ご連絡ください。

<http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/gakunai/office/anzeneisei/index.html>

（東京大学ホームページ→教職員の方へ→環境安全本部）



消防演習

問い合わせ先：環境安全本部（内線：21051）

東京大学ポータルサイト (UT-Portal) テスト運用開始!

平成17年12月の「東京大学ポータルサイト構築検討委員会（委員長＝岡村定矩理事・副学長）」において、平成17年度～19年度にわたる3年計画で学内コミュニケーションの活性化および業務改善の促進を目指して「東京大学ポータルサイト（以下、「UT-Portal」という）」を構築することになりました。

「ポータル（玄関、入り口）」という名のとおり、現在東京大学で運用されている基幹的な情報システムへの入り口となる東京大学構成員専用のWebサイトです。

UT-Portalのテスト運用は、平成18年5月11日から本部事務で開始しました。7月上旬からは全学事務職員を対象としてテスト運用を開始します。

UT-Portalの利用対象者は誰？

平成19年度には、原則として東京大学構成員（教職員・学生等）全員となる予定です。

平成18年5月11日～	本部事務職員を対象に先行テスト運用開始
平成18年7月上旬～	工学部とのテスト運用および、全学事務職員を対象に閲覧機能のテスト運用を開始
平成18年11月～	全学教職員を対象に運用開始(予定)
平成19年6月～	全学学生を対象に運用開始(予定)

UT-Portalのメリットは？

全学統一のシステムに移行することにより、いままで煩雑であった様々な業務がスムーズに行われることとなります。

(1) スムーズな情報伝達

学内での情報伝達の場合、これまでは各担当部署から通知したい相手に対してメールの転送を重ねることにより手間と時間がかかっていましたが、UT-Portalでは、必要な情報が通知したい相手に直接伝達されるようになります。

(2) 情報の一元管理

本部や各部局において固有に管理している情報をUT-Portalで一括して管理することにより、規則、各種様式、各種手続き方法などを担当部署が直接更新できるため、各部局独自にこれらの情報を管理する必要がなくなります。

(3) 学外にいても情報が得られます

UT-Portalは、学外にいてもログインすることができますので、校外活動先や出張先などからでも、学内の情報が確認できます。

(4) システム管理・運用の一元化につながります

現在、各部局において独自にポータル（グループウェア等）を導入し運用されていますが、今回のUT-Portal導入により大学全体でシステムの一元化を目指すことができ、各部局におけるシステム管理・運用の業務軽減につながります。

(5) 異動先でも同じくUT-Portalを利用できます

ユーザ情報を人事・給与システムから取得していますので、教職員の異動があった場合、速やかに異動先でも同じUT-Portalが利用できます。



どんな機能があるの？

(1) 一斉通知機能

①有効な情報が簡単に見られます

UT-Portalのメインとなる機能です。学内で周知される情報を、カテゴリ（研究費申請、教員公募など）別に表示することが可能ですので、利用者に関係のある情報を見逃さないで得ることができます。

②事務系で利用されている連絡用メーリングリストに代わるシステムとなります

事務系で利用されている連絡用メーリングリストは全学展開を機に廃止される予定です。全学展開後は、全てこの「一斉通知機能」を使用することによって代替されます。各部局において、とりまとめ等が必要な通知については、「一斉通知【部局事務宛】」というカテゴリで通知することにより、通知をそのまま流用して部局内に再通知することができます。

(2) スケジュール機能

スケジュール管理ができます。



(3) 全文検索

一斉通知文書や、共有フォルダ内の情報を検索して表示することができます。

(4) 共有フォルダ

学内で共通するもの（規則、各種様式など）を一括管理し格納するフォルダです。これにより、規則や様式の最新版を速やかに手に入れることができ、各部局で独自に管理する必要がなくなります。

(5) MyPage機能

画面を自分用に作るすることができます。たとえば、一斉通知の「教員公募」や「工事情報」などの情報を、新規に表示窓（ポートレット）を作成し、常に表示させておくことができます。

今後導入が予定されている機能は以下のとおりです。

- ・「教職員便利帳」
各種手続きにおけるQ & Aなどを各種様式とともに掲載します。
- ・全学施設予約機能
全学を対象とした会議室などの施設予約管理機能を検討中です。
- ・「教職員のみなさまへ」の移行
学内専用ページ「教職員のみなさまへ」などのコンテンツについても、ポータルサイトに整理され掲載されます。
- ・携帯電話閲覧機能
携帯電話でも利用できるようになります。
- ・シングルサインオン
現在、学内で運用している各種システムへのログインの統一を目指します。

詳細につきましては、全学展開前に、またご紹介させていただきます。

今後の展望

全学展開に向け、東京大学ポータルサイト構築検討委員会で、皆様の意見を取り入れ、より良いものになるよう奮闘中です。

利用してみて気づいたことや、改善要望などがありましたら、以下の問合せ先までご連絡ください。

問い合わせ先

ポータルサイトの使用方法に関すること
ポータルサイトヘルプデスク
portal-help@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

改善要望などのご意見
総務部業務改善グループ
gyoumukaizen@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

NEWS

一般ニュース



環境安全本部

本郷キャンパスにて危険物安全週間
消防演習が行われる

一般

6月5日（月）、本郷消防署による危険物安全週間に伴う消防演習が、学生部及び工学系研究科の協力のもと、本郷キャンパス構内の銀杏並木通りにて実施された。6月4日（日）から6月10日（土）までの全国危険物安全週間のポスター（全国統一標語「自主点検 欠かさぬあなたに グランプリ」）に、F1ドライバーの佐藤琢磨氏が起用されていること、同じ時期に、東京消防庁がヒューマンエラーに関する注意の呼びかけである東京消防庁危険物安全標語「危険物 心のゆだんが 事故のもと」で危険物安全週間の推進を行っていることから、本郷消防署でフォーミュラレーシングカーを使った消防演習の企画が立てられ、その協力依頼に本学が応えたものであった。

この消防演習の内容は、給油中の燃料に引火し、炎上するフォーミュラレーシングカーに対して、出動した消防車両4台のうち、化学機動中隊が消火活動を行うというものだった。当日は、本物のレースにも使われたことがある深紅のレーシングカーが登場し、堂々たる走りぶりを見せて、集まった300名前後の見学者たちを魅了した。この演習のために、フォーミュラレーシングカーを提供したのは、工学系研究科産業機械工学専攻の草加浩平助教授だった。設計工学研究室（草加・村上研究室）では、フォーミュラレーシングカーを設計・製作する全日本学生フォーミュラ大会への参加を通して、学生へのものづくり教育を積極的に行っているとのことだった。当日のフォーミュラレーシングカーのハンドルを握った「東京大学フォーミュラファクトリー」の学生は、取材に

訪れたマスコミ各社の記者に対して、研究の喜びと重ねて、危険物を取り扱う認識の大切さを語っていた。



迫力満点のフォーミュラカー消防演習



消防演習協力者の皆さん

なお、この消防演習には、本学の教職員・学生だけでなく、近隣の町会等からも多くの見学者があった。とりわけ、文京大学附属幼稚園と中央会堂幼稚園から、若い保育士に引率された80名あまりの園児たちは、フォーミュラレーシングカーの登場から、この演習を締めくくる列品館への一斉放水に至るまで、感動の歓声を上げつづけ、このような機会であれば得られない体験の貴重さに、大いに満足した様子であった。

協力：学生部学生課学生生活チーム、工学系等安全衛生管理室、工学系・情報理工学系等事務部経理課財務チーム（施設担当）



珍しい演習に興味津々の幼稚園児達

人事部
名誉教授の称号授与

6月20日（火）に開かれた教育研究評議会で、東京大学名誉教授称号授与規則により、次の元教授59名に名誉教授の称号を授与することになった。

部局	氏名	担当講座等
大・法	高橋 和之	憲法講座
大・医	上野 照剛	医用生体工学講座
大・医	花岡 一雄	生体管理医学講座
大・工	篠原 修	社会基盤プランニング講座
大・工	坂本 功	建築構造学講座
大・工	岡部 洋一	光電子・集積デバイス工学講座
大・工	菅野 幹宏	マテリアル環境講座
大・工	矢木 修身	附属水環境制御研究センター 水環境制御研究分野
大・工	龍岡 文夫	社会基盤エンジニアリング・ マネジメント講座
大・工	桑原 誠	機能システム講座
大・文	秋山 弘子	社会心理学講座
大・文	似田貝 香門	社会学講座
大・文	田村 毅	フランス語フランス文学講座
大・文	河野 元昭	美術史学講座
大・文	櫻井 万里子	西洋史学講座
大・文	小島 孝之	日本語日本文学（国文学）講座
大・文	後藤 直	考古学講座
大・文	佐藤 康邦	倫理学講座

大・文	宇田川 洋	北海文化研究常呂実習施設
大・文	五味 文彦	日本史学講座
大・文	浅井 健二郎	ドイツ語ドイツ文学講座
大・理	小林 孝嘉	物理学専攻量子光学講座
大・理	太田 俊明	化学専攻物理化学講座
大・理	東江 昭夫	生物科学専攻植物科学講座
大・理	祖父江 義明	天文学教育研究センター
大・理	小林 昭子	スペクトル化学研究センター
大・農	山口 五十磨	生物生産化学講座
大・農	小林 洋司	森林資源環境科学講座
大・農	八木 宏典	農業構造・経営学講座
大・農	小野 擴邦	バイオマス化学講座
大・農	飯塚 堯介	バイオマス化学講座
大・農	谷田貝 光克	国際植物生産学講座
大・農	東條 英昭	高次生体制御学講座
大・農	土井 邦雄	病態動物医科学講座
大・農	小川 博之	附属家畜病院
大・養	滝田 佳子	多元文化協力論講座
大・養	小林 寛道	認知行動科学講座
大・養	伊藤 亜人	文化人類学大講座
大・養	義江 彰夫	世界思潮第二講座
大・養	小牧 研一郎	基礎システム大講座
大・養	油井 大三郎	地域文化研究部門
大・育	渡部 洋	教育心理学講座
大・薬	桐野 豊	生体分子機能学講座
数理	薩摩 順吉	数理解析学講座
数理	金子 晃	離散数理科学講座
創域	渡邊 達三	自然環境学講座
創域	熊谷 洋一	自然環境学講座
創域	高木 保興	国際環境基盤学講座
学環	原 洋之介	アジア経済論
情理	小柳 義夫	コンピュータ科学講座
情理	岡部 靖憲	数理情報学原論大講座
情理	青山 友紀	電子通信メディア学講座
社研	田端 博邦	比較現代法部門
生研	今井 秀樹	情報・エレクトロニクス系部門
生研	増沢 隆久	マイクロメカトロニクス 国際研究センター
分生	鶴尾 隆	癌化学療法学
物性	安藤 恒也	物性理論研究部門
総博	田賀井 篤平	研究部博物館開発研究系
総博	大場 秀章	研究部キュラトリアル・ワーク 研究系

部局 ニュース



大学院医学系研究科・医学部

特別講義「Moments of Discovery」
を開催

4月14日（金）に、大学院医学系研究科・医学部では1980年ノーベル化学賞受賞者でスタンフォード大学医学部名誉教授のPaul Berg博士をお招きし、特別講義にてご講演いただきました。Berg博士は遺伝子工学における基礎技術の開発と安全管理において世界を先導してこられました。生化学・分子生物学の礎を築かれた歴史的な科学者としてご高名です。



講義開始前の鉄門記念講堂

本講義は医学部学生が講義内容の編成に参加する基礎統合講義の一企画として立案され、本研究科の岡山博人教授が世話人となり実現いたしました。講義は一般公開で行われました。学生や大学院生のほか学内外の多数の出席者に恵まれ、会場となった鉄門記念講堂は座席だけでなく通路もびっしりと聴衆で埋め尽くされました。



講義中のPaul Berg博士

熱気に満ちる講堂で、博士は自らが研究を志してから遺伝子組み換え技術の確立に至る軌跡を2時間にわたってご紹介くださいました。まず、出発点となったacetyl-CoAの生合成に関する研究が脂肪酸の伸張機構の発見に繋がったこと、その反応過程から着想を得て、アミノ酸と核酸の複合体が形成される機序を明らかにし、tRNAを介したタンパク質生合成の原理を発見したことをご紹介くださいました。ついで、原核細胞から真核細胞に研究の軸を移し、ウイルスが感染細胞に新たな遺伝情報を組み込み形質転換させる現象に注目されました。この研究でSV40ウイルスのDNAに接着性に富んだ断端をもつ外来遺伝子を組み込むことに成功し、世界で初めて実験系において組み換えDNAの作製を成し遂げられました。この遺伝子組み換え技術は簡便な断端の調製法と細胞分裂を経ても遺伝情報が継承される工夫がなされることで確固たるものとなり、今日も広範に利用されています。



13階レストランにおける懇親会

Berg博士は講義の表題でもある「Moments of Discovery」を研究者に与えられた特別な瞬間であり、研究者の生きがいもここにあると語っておられました。しかし、博士が成し遂げられた多くの瞬間はいわば未明の空に放たれた夥しい数の光の矢であり、その光によって今日の医学ならびに生命科学の世界が照らし出されていることを実感せずにはおられませんでした。

講義終了後には講堂階下のレストランで懇親会が開催され、会場には特に学生と大学院生の参加が多く見受けられました。Berg博士の気さくなお人柄もあって、博士を取り囲む何重もの人の輪が途絶えることなく出来ていました。博士が放つ光がやがては未来の科学の世界を照らす新しい光を生み出すことを期待して止みません。

大学院理学系研究科・理学部

附属植物園で学生・教職員の交歓会 が開かれる

大学院理学系研究科・理学部の定例行事となっている学生と教職員の交歓会（第42回）が5月22日（月）15時から理学部附属植物園（小石川植物園）において開催された。

当日はうす曇にもかかわらず、各学科から選出された総勢21名の学生有志と職員との共同作業による準備のもと、新緑の園内にはおよそ630名を超える学生・教職員が集まった。

会は岩澤研究科長、長田植物園長の挨拶に始まり、松浦副研究科長の発声で交歓会が開始された。

学生・教職員はもとより名誉教授の方々にも多数参加いただき、芝生には飲み物などを手に学科・専攻を超えて語り合う懇親の輪が幾重にも広がり新緑を満喫しながら、和気藹々とした楽しい交歓のひと時を過ごし17時すぎに散会した。



歓談する学生・教職員（附属植物園サクラ林にて）

大学院総合文化研究科・教養学部

「ご父兄と教養学部長との懇談会」開 催される。

6月10日（土）駒場Iキャンパスにおいて、「ご父兄と教養学部長との懇談会」が開催され、約120名が参加した。これまで、学生のご父兄と学部長が親しくお話をする機会がなかったことから、駒場友の会が、同会の会員・会友になっていただいたお父様方、お母様方を対象にこのような場を設けることになったもので、駒場友の会の主催で大学院総合文化研究科・教養学部が共催して開催された。

懇談会は、10時30分から教養学部18号館1階ホールにおいて、木畑教養学部長の「駒場の若かったころ、私が若かったころ」と題した講演会で始まり、11:20からキ

ャンパス・ツアーが行われ、12:30から駒場ファカルティ・ハウスのセミナー室で懇親パーティが開催された。



木畑教養学部長の講演



キャンパスツアー

木畑教養学部長の講演は、昔の駒場の写真と今の駒場をプロジェクターで映し出し、駒場の地が変化してきた様子、学生の姿の変遷等についてお話しされたもので、ご父兄も興味深い様子で聞き入っておられた。

続いて行われたキャンパス・ツアーは、木畑教養学部長、浅島前教養学部長をはじめ教養学部の教員10名が各班に分かれて行われ、図書館、講義棟（5号館の新しい教室、1号館の古い教室）、課外活動施設（コミュニケーション・プラザ北館等）、美術博物館、教員研究室等を見学した。ご父兄は、5号館の新しい教室と1号館の古い教室を見たり、1号館の時計台に昇ったり、浅島研究室では、マウスのES細胞（胚性幹細胞）からつくった実際に拍動している心臓を顕微鏡で見たりして、ツアーの最後には900番教室でパイプオルガンの演奏に感動されアンコールもあり、十分満足された様子であった。

駒場ファカルティ・ハウスで行われた懇親パーティでは、木畑教養学部長の挨拶のあと、浅島前学部長の乾杯、ご父兄代表のご挨拶があり、小川桂一郎助教授のカンツォーネ独唱や、木畑学部長との記念撮影もあって盛会となった。なお、アンケート調査で、ご父兄からの感動と感謝の回答が多数寄せられたことは、教養学部としての喜びであった。

剣道部

赤門から本郷キャンパスに入り鬱蒼と緑茂る三四郎池のほとりを歩くと、わが剣道部の道場である七徳堂が見えてきます。

純日本式御殿造りの型を誇るこの立派な道場で、私たちは日々剣道の稽古に励んでいます。

○ 指導陣

わが部では、日本代表監督の経験もある小林英雄先生を師範に、警視庁の佐藤勝信先生、寺地種寿先生をコーチにお招きして、各自がさらなる技の研鑽に取り組んでいます。

また技術の向上のみならず、剣道を通じた人格形成の道も学んでいます。

○ 現在の部の様子

わが部には現在約50名の部員が所属し、稽古は週に6回、本郷キャンパスの七徳堂で行なっています。

我々の目標は関東大会を勝ち抜いて全国大会に出場することです。しかし今春行われた個人戦には男子6名女子3名が出場し全国大会への切符を目指したものの、私立の強豪校の壁は厚く、惜しくも勝ちあがることはできませんでした。秋の団体戦においても全国大会への出場を目指し、部員一丸となって一層努力していきますので剣道部への応援を今後ともよろしくお願いします。

(剣道部 渡辺 大二朗)



★★DATA★★

創立：明治21（1888）年

部員数：約50名

練習場所：本郷地区七徳堂（武道場）

練習日：月・水 18:00～20:00

火・木・金 16:00～18:00

土 10:00～12:00

年間予定：5月 関東学生剣道選手権大会

6月 防衛大戦、東京地区国公立剣道大会

7月 七大戦

9月 関東学生剣道優勝大会

10月 一橋大戦

11月 京大戦、関東学生剣道新人戦大会

12月 部内選手権・納会、ソウル大交流戦

2月 高校招待試合

部長：寺尾美子（大学院法学政治学研究科教授）

監督：牧 芳正（昭和60年剣道部OB）

ワンダーフォーゲル部

19世紀ドイツ、機械文明に奪われた人間性を取り戻すため青年たちは自然の中に入っていました。これがワンダーフォーゲル（渡り鳥の意味）の始まりです。

大空を自由に飛び回りはるかな道のりを旅する渡り鳥・・・その渡り鳥のように自然の中を力いっぱい羽ばたきたいというのが私たちの願いです。

わがワンダーフォーゲル部は、山をフィールドとして幅広い活動をしています。主な活動としては、普通の夏山登山や、道のない山に登る藪ごぎ、美しい渓谷を遊覧していく沢登り、静かな銀世界にシュプールを描く山スキーなどが挙げられます。

わが部には年4回の合宿があり、この準備としての山行が数回あって、これらは全員が参加します。それ以外の時期は部の拘束はあまりなく、企画という形で各々の好みに応じた山行をすることができます。過去には、知床半島縦走、清流葛根田川遊覧、富士山スキー滑降など、個人、サークルレベルでは決して行くことのできない、バラエティーに富んだ企画が数多く出ています。

(ワンダーフォーゲル部 安達 庸平)



★★DATA★★

創立：昭和26（1951）年

部員数：23名

練習日・場所：土曜日に代々木公園にて

年間予定：通年にわたって土日、または長期休暇を利用して登山

4月 新人合宿

8月 夏合宿

12月 12月合宿

3月 3月合宿

部長：牧島一夫（大学院理学系研究科教授）

顧問：山口 泰（大学院総合文化研究科教授）

H P:[http://www.geocities.co.jp/Outdoors-](http://www.geocities.co.jp/Outdoors-Mountain/3050/about.html)

[Mountain/3050/about.html](http://www.geocities.co.jp/Outdoors-Mountain/3050/about.html)

第11回 「うまくいかないこともある」

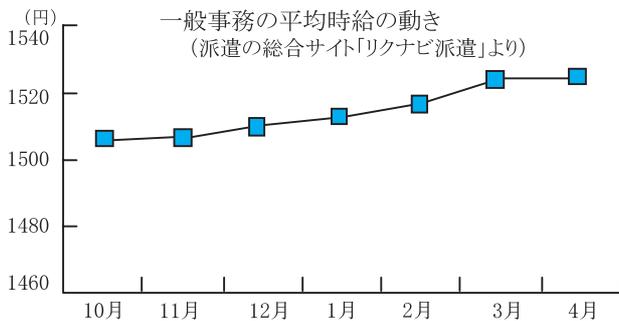
調達本部は昨年12月の重点分野を示し、すでにこの欄でも触れたとおり、分野別に対策を着実に実施してきました。しかし、重点分野の中には、当初の目論見どおりにいかないケースも出てまいりました。ひとつの例として「派遣」についてお話しします。

調達本部では、伝票を調べた結果から推計したところ、全学では8億円前後が派遣業者に支払われていると見積もりました。現在、大小様々な派遣会社との間の契約によっています。調達本部では、スケールメリットを活かすために、サプライヤの集約を軸に対策の検討を進めました。

派遣と一口にいても、単純な事務補助、秘書業務、一定の技術力を要する職種など様々です。そこで、東大の派遣社員の仕事内容を具体的に調査してみました。その結果、やや意外なことが判明していきます。東大の場合、通訳・翻訳、研究活動の補助といった高度の専門性をもつものがかなり含まれていたことです。当然賃金水準も非常に高く、これが派遣というカテゴリーの金額的なボリュームを押し上げていたようです。しかし、これらは一般の人材派遣とは切り離して考えざるをえません。

結局、いわゆる一般の派遣会社からの派遣社員に係る契約額総額は1億円強にとどまると見直さざるを得ませんでした。こうなると、規模のメリットといっても余り大きな話ではなくなってきます。

加えて、人材派遣業は近年における成長業種のひとつであり、昨今の景気回復もあいまって派遣単価は徐々に上昇傾向を示し、別図のように、ごく最近では落ち着いているもののいわば「売り手市場」の様相となっています。東大のもつ契約規模が、派遣業者が「逃したくない」と思うほどには大きくなく、かつどの業者の姿勢も強気というのは、調達改善にとって最悪の状況です。当面状況を見守るしかなさそうです。



ただ、「うまくいかないこともある」と納得しているだけでは始まりません。調達本部では、「うまくいかない」分野に代わる、より効果的な調達改善分野を必死で捜し求めています。

調達本部連絡先 ☎22148 櫻井

附属中等教育学校の2年生が遠足で鎌倉へ

5月10日(水)に2年生(118名)と引率教員6名で、鎌倉へ行った。当初は、陣馬下から高尾山への登山を予定していたが、雨天のため行き先を変更した。

まず、バス3台で高徳院まで行き、大仏の前でクラス写真を撮った。その後、各クラス男女2名ずつ4名のグループで、2ヶ所のチェックポイント(鎌倉駅東口・近代美術館)を通過しながら、鎌倉の寺院・神社や史跡を散策した。

由比が浜海岸で昼食を食べたグループは、空からきた鳶に「おにぎり」を取られてしまうというハプニングもあった。また、雨天後のハイキングコースに行ったグループは滑ってズボンに土をつけていた。全30グループが無事、鶴岡八幡宮に14:30に集合して、15:00解散となった。

生徒の感想文では「今回の遠足では買い物ができなかったり、行きたかったところにも時間の関係であきらめたりなど我慢が多かったのも、また家族で行きたいと思います。友達との楽しい思い出がたくさんできて良かったです」とあり、男女4名が協力して、よいコミュニケーションがとれたようである。

(教育学部附属中等教育学校)



高徳院での集合写真

INFORMATION

シンポジウム・講演会

シンポジウム・講演会

東京大学海洋アライアンス

東京大学の海研究—海からの恩恵と災害— のご案内

海洋には、多くの研究課題が多くの分野にまたがって存在しています。本学の理科系では理学、工学、農学生命科学の研究科、地震研、生研、海洋研の研究所、その他研究センター等で200名近くの研究者が海洋関連の研究をおこなっており、海洋の大きなシンクタンクを形成しています。

海洋の重要性の認識が高まっている現在、本大学の海洋関係研究者間の分野を越えたコミュニケーションを確保し、その活動を外部へと発信していく必要があると考え、今年1月に関係する研究科、研究所、研究センター等から代表者を募り、「東京大学海洋アライアンス」推進委員会を発足させました。

東京大学海洋アライアンスの発信活動の第一弾といたしまして、7月12日（水）に弥生講堂にてシンポジウム「東京大学の海研究—海からの恩恵と災害—」を開催いたします。ここに本シンポジウムへの参加をご案内いたします。ぜひご来場ください。

また、理科系、文科系を問わず学内で海洋に関心のある教職員の皆様の入会を歓迎いたしますので、下記事務局までお気軽にご連絡ください。

「東京大学の海研究—海からの恩恵と災害—」

日時：7月12日（水） 9:30～18:10

場所：弥生講堂・一条ホール

プログラム

9:30～10:00 開会の挨拶：東京大学総長 小宮山 宏

10:00～11:40 海からの生産

- ・海洋のメタンハイドレート：資源化への挑戦
（理学系 地球惑星科学専攻 松本 良）
- ・高効率で安全安心な海上交通システム
（新領域 環境学研究系 大和裕幸）
- ・イワシ類の魚種交替と生活史二型
（農学生命 水圏生物科学専攻 青木一郎）
- ・閉鎖性内湾の水環境
（新領域 磯部雅彦）
- ・アジアの漁村開発—自立的な資源管理を目指して—
（農学生命 農学国際専攻 黒倉 寿）

13:00～14:00 海の変動

- ・地球の気候をコントロールする深海のミクロな現象
—深海乱流の解明へ向けて—
（理学系 地球惑星科学専攻 日比谷紀之）
- ・海の変動予測システム
（理学系 地球惑星科学専攻 山形俊男）
- ・海底変動観測
（海洋研 海洋底科学 徳山英一）

14:10～16:10 海の観測

- ・海底火山を観測するロボット
（生産研 海中工学研究センター 浦 環）
- ・流水の観測と予報
（工学系 環境海洋工学専攻 山口 一）
- ・海底熱水域の掘削と地下生物圏
（理学系 地球惑星科学専攻 浦辺徹郎）
- ・相模湾の多様な動物の比較ゲノムと進化研究
（理学系 臨海実験所 赤坂甲治）
- ・バイオロギング・システム
（海洋研 海洋科学国際共同研究センター 宮崎信之）
- ・海底資源探査開発の現状
（工学系 地球システム工学専攻 玉木賢策）

16:20～18:00 海からの災害

- ・日本周辺における地震と津波の観測
（地震研 地震地殻変動観測センター 金澤敏彦）
- ・グローバルな地球内部活動と地震
（地震研 海半球観測研究センター 歌田久司）
- ・海岸侵食と沿岸域の防災
（工学系 社会基盤学専攻 佐藤慎司）
- ・水中からのテロ対策と監視技術
（生産研 海中工学研究センター 浅田 昭）
- ・バラスト水による水生生物越境移動と対策技術
（アジア生物資源環境研究センター 福代康夫）

18:00-18:10 閉会の挨拶：海洋研 寺崎誠

18:30-20:00 懇親会：東京大学山上会館

参加費：無料（懇親会は会費3000円）

参加申込方法：

下記ホームページから申し込み頂けます。（学生は不要）
<http://www.gisolab.t.u-tokyo.ac.jp/~murayama/marine/>

東京大学海洋アライアンス代表推進者所属組織：

理学系研究科、工学系研究科、農学生命科学研究科、

新領域創成科学研究科、地震研究所、生産技術研究所、
海洋研究所、アジア生物資源環境研究センター、
気候システム研究センター

事務局：

工学系研究科環境海洋工学専攻 村山英晶
E-mail：murayama@giso.t.u-tokyo.ac.jp
Tel/Fax: 03-5841-6514

シンポジウム・講演会

サステナビリティ学連携研究機構

東京大学・日本経済新聞社共催公開シンポジウム『課題先進国日本—課題解決のために今何をすべきか—』

現在、地球温暖化問題など地球規模の重要な課題が幾つもあり、人類の生存、および、持続的発展のためにはこれらの解決が求められている。日本は21世紀に世界が立ち向かわねばならないであろう、少子高齢化、エネルギー問題、環境問題などの課題に他国に先駆けて直面している「課題先進国」である。

これらの課題は他国に問題解決のモデルを求めることが困難で、日本が自ら課題解決を模索することが必須である。そのためには、課題に挑戦してゆく気概が重要である。しかも、これらの挑戦は、誰かにたよるのではなくビジネスとして展開されなければならない。大学においても課題解決に向けて挑戦をしている取り組みを参考にして、新たな挑戦が始まることを期待する次第である。

- 日時：7月20日（木）13:30～17:30
- 場所：安田講堂

■プログラム：

- 13:30～13:45 挨拶**
小宮山 宏 総長・サステナビリティ学連携研究機構 機構長
- 13:45～14:15 「安心・安全のための社会技術」**
堀井 秀之
大学院工学系研究科社会基盤学専攻 教授
- 14:15～14:45 「脱温暖化社会と都市」**
花木 啓祐 大学院工学系研究科都市工学専攻教授・サステナビリティ学連携研究機構 兼任教授
- 14:45～15:15 「サステナブルビルディングの実現への挑戦」**
加藤 信介 生産技術研究所 教授
- 15:15～15:35 休憩
- 15:35～16:05 「学術知識の共有・探索・統合」**
Steven Kraines 総括プロジェクト機構
学術統合化プロジェクト研究部門 助教授

16:05～16:35 「超高齢社会における Successful Aging」

秋山 弘子 総括プロジェクト機構
ジェロントロジー寄付研究部門 教授

16:35～17:05 「感染症のリスク分析と管理」

牛島 廣治
大学院医学系研究科国際生物医科学講座 教授

17:05～17:30 「地球持続戦略研究イニシアティブ (TIGS) の取り組み」

住 明正 サステナビリティ学連携研究機構教授
地球持続戦略研究イニシアティブ (TIGS)
統括ディレクター

※プログラムは変更する場合がございます。

■申し込み先（参加無料）：

<http://www.adnet.ne.jp/nikkei/bizcre/20060720.html>

■申し込みに関する問い合わせ先：

日経ビジネスクリエーション塾事務局
TEL 03-5452-2505

受付時間 10:00～17:00（土、日、祝日は除く）

■プログラムに関する問い合わせ先：

サステナビリティ学連携研究機構
特任教授 浅尾 修一郎 TEL 03-5841-7937



募集

生産技術研究所

第4回東京大学学生発明コンテスト

生産技術研究所では昨年に引き続き発明コンテストを行います。本学の学生であればどなたでも参加できますので、皆様ふるって応募してください。

募集主旨：

知的生産活動により得られた新規アイデアを個人の内秘めておくばかりでなく、新規性の権利を明確に主張できることが、これからの知財立国を支える研究者に要求されています。研究者としての第一歩を踏み出したばかりの柔軟な思考を持つ学生諸君に、そのような権利主張を行うトレーニングの機会を与えることを目的として発明コンテストを企画しました。このような権利主張の機会を通じて、現在は漠然としたイメージしか抱かれていないであろう、知的財産権の理解を深めていただくことを期待しています。

応募資格：

大学の学生（学部学生・大学院学生）

応募期間：

7月3日（月）～9月29日（金）（必着）
※応募用紙は6月中旬から配布いたします。

日程：

2006年11月中旬	書類審査終了 予備審査結果の通知
2006年12月26日（火）	本審査 プレゼンテーション
2007年1月 初旬	審査結果の通知
2007年1月 下旬	表彰式

発明内容：

発明の分野や内容、実施の度合は問いません。但し、「特許法上の発明」（自然法則を利用したアイデアで、産業上利用できるもの）に該当しない場合は審査対象にならない可能性があります。

提出書類：

応募用紙表紙（様式A）……………2部
発明説明書（様式B、A4版タテ記述自由形式）…2部
発明確認シート（様式C）……………1部
応募用紙の様式A、Bの内容を含む電子媒体……………1部

※応募用紙は、以下のホームページからダウンロードできます。第1回から第3回までの本コンテストの詳細も見るができます。

<http://hatsumei.iis.u-tokyo.ac.jp/>

審査：

東京大学生産技術研究所（産学連携委員会）、（財）生産技術研究奨励会（TLO）、弁理士の関係者で行う予定
*審査においては、特許性よりもアイデアを重視する予定です。

表彰：最優秀賞、優秀賞、アイデア賞等

表彰式において賞状、賞金、記念品が授与されます。

*発明者が希望する場合、優秀な発明に対しては（財）生産技術研究奨励会（TLO）が特許出願の協力を行います。

その他：

- *応募する際には事前に、「応募にあたってのご注意」をご確認ください。
- *一人で複数の発明を応募しても構いませんが、発明ごとに別々に応募してください。

主催：

東京大学生産技術研究所
財団法人生産技術研究奨励会（TLO）

問い合わせ先：

〒153-8505 東京都目黒区駒場4-6-1
東京大学生産技術研究所内
（財）生産技術研究奨励会 発明コンテスト係
電話: 03-5452-6097 Fax: 03-5452-6096
e-mail: fpistol1@iis.u-tokyo.ac.jp

募集**空間情報科学研究センター****2006年度 第9回年次シンポジウム
— CSIS DAYS 2006 — へのお誘い**

2006年度の当センターシンポジウムの日程が決定いたしましたので、ここに皆様方のご来臨をいただきたくご案内申し上げます。昨年度のシンポジウムは、参加者が300名を超え大盛況でした。本年度も、空間情報科学の最新の学術研究を広く多くの方々に知っていただくとともに、関連する方々の交流の場を実現したいと考えております。

初日は、当センターの研究結果紹介、招待講演、および全国共同利用施設化記念祝賀式典を予定しております。2日目は、当センターおよび拠点校を中心とした全国共同利用研究発表大会を設けます。また、本発表大会は広く発表募集を行いますので、奮ってご発表の申し込みを行ってください。プログラムの具体的な内容は、8月下旬に本シンポジウムのホームページを参照していただきますようお願いいたします。

東京大学空間情報科学研究センター長 柴崎亮介

日時：10月4日（水）、5日（木）
場所：柏キャンパス 総合研究棟（6階）
参加費：無料

詳しい内容は下記ホームページで順次公開いたします。

<http://www.csis.u-tokyo.ac.jp/sympo2006/>

- 一般研究発表申し込み締め切り：7月24日（月）
- 参加申込み受け付け開始：8月中旬
- 最終プログラムの公開：8月下旬

問い合わせ先：

空間情報科学研究センター
第9回年次シンポジウム受付係
E-mail: csisdays06-office@csis.u-tokyo.ac.jp

【プログラム — CSIS DAYS 2006 —（概略案）】

10月4日（水）

午前：「空間情報科学研究センター研究成果報告会」
セッション

- 午後（前半）：「招待講演会」セッション
 ・「ユニバーサルな歩行者ナビゲーションの実現
 までの道程と今後の展開」（仮題）
 株式会社 ナビタイムジャパン
 代表取締役社長/工学博士 大西 啓介
 ・他 1～2件

午後（後半）：「全国共同利用施設化記念祝賀式典」
 夕方：懇親会

10月5日（木）

全日：「全国共同利用研究発表大会」セッション

当センターおよび全国における空間情報科学に関する学術研究の発表が行われます。一般的な学会発表とは異なり、多くの一般の方々に学術研究を容易に理解していただくために、分かりやすい発表を行う点を強調しております。以下の2部構成になっております。

(1)「口頭発表」サブセッション

- ・1件あたり5分程度で研究の内容を紹介していただきます。たとえば、1時間のセッションでは、12件の発表内容を知っていただくことになります。この口頭発表は、次のポスター発表のインデックスとしての役割を果たします。

(2)「ポスター発表」サブセッション

- ・口頭発表では、参加者に短時間で多くの内容を広く浅く知っていただく場を実現します。一方、ポスター発表では、興味がある研究に対して、より深い内容を知っていただく機会を実現できます。口頭発表の直後にポスター発表を行います。

この「全国共同利用研究発表大会」セッションは、一般からの発表申し込みを受け付けますので、是非ご検討ください。

発表申し込みは、A4サイズで1ページの研究アブストラクトを提出していただく形式になっております。この研究アブストラクトの原稿提出締切は【7月24日（月）】です。原稿を集めて、日本における空間情報科学の研究アブストラクト集としてフルカラーで冊子を作成する予定です。

投稿要項および原稿のフォーマットなどの詳しい内容は、本シンポジウムのホームページ

(<http://www.csis.u-tokyo.ac.jp/sympo2006/>)

に掲載いたしますのでご確認ください。

また、昨年度のアブストラクト集は、昨年度のシンポジウムのホームページ

(<http://www.csis.u-tokyo.ac.jp/sympo2005/>) から閲覧できます。

お知らせ

お知らせ

海洋研究所

「一般公開」のお知らせ！



海洋研究所では、海洋科学に関する情報を公開し、研究所への理解を深めていただくために一般公開を下記のとおり行います。

子供から大人まで楽しめる企画を多数用意して、海洋と地球環境とのかかわりなど「海」の重要性についてお伝えしたいと思います。東京都中野地区と、岩手県大槌地区でそれぞれ下記の日程で開催いたします。多数の方々のご来場をお待ちしています。

<東京都中野地区>

日時：7月15日（土）12:00～16:30

場所：東京大学海洋研究所

- ・研究室見学ツアー
- ・展示 *進化の生き証人ナメクジ魚など
- ・ロープむすび教室
- ・模擬実験 *雨粒ってどんなかたち
*川から海への砂粒の輸送過程
- ・市民講座「沿岸の環境はどのように変わってきたかー人間活動と窒素をめぐってー」
小池勲夫 教授 13:00～

<岩手県大槌地区>

日時：7月17日（月）10:00～15:00（祝日：海の日）

場所：国際沿岸海洋研究センター

テーマ：「三陸の海と魚を知ろう!」

- ・所内見学ツアー ・ロープむすび体験
- ・お魚ふれあいコーナー・沿岸生物・パネル展示
- ・研究船「弥生」見学コーナー
- ・講演「トゲウオのはなし」新井崇臣助手13:00～

詳しくは、ホームページをご覧ください。

<http://www.ori.u-tokyo.ac.jp>

お知らせ

東京大学音楽部管弦楽団

サマーコンサート2006のお知らせ

当団では毎年東京近郊と日本各地においてサマーコンサートを開催しております。今年度の日時・会場・プログラム等の詳細について、ご案内させていただきます。

<神奈川公演>

7月17日(月・祝) 13:30開場 14:00開演
鎌倉芸術館 大ホール

<東京公演>

7月22日(土) 18:00開場 18:30開演
昭和女子大学人見記念講堂

<名古屋公演>

8月1日(火) 18:00開場 18:30開演
愛知県芸術劇場 コンサートホール

<大阪公演>

8月2日(水) 18:00開場 18:30開演
八尾市文化会館 プリズムホール大ホール

<北九州公演>

8月4日(金) 18:00開場 18:30開演
九州厚生年金会館

指揮：三石 精一(当団終身正指揮者)

曲目：チャイコフスキー

交響曲第6番 口短調「悲愴」

ドヴォルザーク

チェロ協奏曲 口短調(チェロ：桑田 歩)

グリンカ

歌劇「ルスランとリュドミラ」序曲

全席自由 1,000円

なおチケットの申し込みにつきましては当団ホームページをご覧になるか、必要事項(お名前、ご住所、電話番号、FAX番号、メールアドレス、ご希望公演、ご希望枚数)と「チケット申し込み(学内広報)」と明記の上、下記のFAX番号またはメールアドレスまでご連絡ください。

HP: <http://webs.to/todaiorch/> FAX: 020-4663-4740

E-mail: tokyo@todaiorch.cjb.net

お問い合わせ：090-3507-6045(森本)

お知らせ

大学院理学系研究科・理学部

第52回小石川植物園市民セミナーのご案内

小石川植物園後援会が主催する第52回小石川植物園市民セミナーが下記の通り開かれます。今回は日光植物園での開催で、本学大学院理学系研究科の種子田春彦博士の解説・案内による、夏の植物観察会です。本学関係者に限らず、どなたでも参加できます。どうぞ皆様お誘い合わせの上、是非ご参加下さいませよう、ご案内申し上げます。

講師：種子田春彦

(理学系研究科生物科学専攻博士研究員)

演題：「夏の植物観察会」

日時：7月29日(土) 13:00~15:00

場所：理学系研究科附属植物園日光分園(日光植物園) 庁舎前に集合

参加費：無料

参加申込方法：

7月24日までに往復葉書または電子メールにて後援会までお申し込み下さい。返信葉書ないし返信メールが招待状となります。なお参加ご希望多数の際は、お申し込み順に従い受付が締め切られることがあります。悪しからずご了承下さい。

主催・参加申込先：

〒112-0001 文京区白山3-7-1

東京大学大学院理学系研究科附属植物園内
小石川植物園後援会

問い合わせ先：

理学系研究科附属植物園 杉山宗隆助教授

TEL: 03-3814-0368

E-mail: koishikawa-koenkai@koishikawa.gr.jp

飯高 洋一 名誉教授

名誉教授飯高洋一先生は、平成18年4月1日（土）に誤燕性肺炎のため逝去されました。享年78歳でした。通夜は親族のみで執り行われ、葬儀は4月6日（木）新宿区四谷たちばな会館で行われました。四谷たちばな会館には、先生を偲んで多数の方々が参列され、各方面でご活躍中であった先生のご逝去を悼みました。



先生は、昭和2年10月15日山梨県に生まれ、昭和26年3月東京大学理学部を卒業されました。同年3月には大学院理学系研究科に進学して研究奨学生に採用され、同29年3月に前期を修了後、同年4月に東京大学理学部助手に採用されました。昭和34年1月に東京大学理学博士の学位を授与され、同年6月から同36年9月までにスイスおよび英国への出張後、同年10月東京大学薬学部助教授に着任されました。昭和42年7月には薬学部教授に昇任されて製薬化学科を担当されました。昭和63年3月に停年退官され、同年5月に東京大学名誉教授の称号を授与されました。退官後の昭和63年4月には帝京大学医学部教授に就任され、帝京大学薬学部教授、西東京科学大学理工学部教授などを歴任後、平成9年5月に帝京科学大学を停年退職され、同年9月に同大学名誉教授の称号を授与されました。

東京大学においては、薬学部・薬学系研究科における教育および研究に加えて、理学系研究科の教育も担当され、評議員、教育用計算機センター長、大型計算機センター長を歴任され、東京大学の運営と発展に寄与されました。さらに、文部省高エネルギー物理学研究所教授を併任され、同研究所放射光実験施設協議会委員、大阪大学蛋白質研究所運営協議会委員、文部省学術情報センター運営協議員なども歴任され、これら機関の運営と発展にも貢献されました。

先生は、長年にわたり主として結晶学および構造科学に関する教育と研究に努められ、薬学、結晶学のみならず化学、生化学、生物物理学などの関連諸分野の研究に多大な貢献をなされました。先生は無機化合物と鉱物の構造研究を経て物質の三次元構造の研究にX線結晶学を導入し、複雑、多岐かつ多数にわたる天然有機化合物、抗生物質、さらにはタンパク質などの構造研究を展開されました。このような研究では、X線回折計の開発と電子計算機のハードウェアとソフトウェアの開発と利用にも早くから着手し、我国におけるその後の電子計算機システムと情報科学の発展の礎を築かれ、構造科学、計算

機科学、情報科学などいずれの分野においても先駆的な役割を果たされました。

研究では、まず、基本的なアミノ酸であるグリシンについて、1954年に結晶多型を発見され、X線回折法により β 型と γ 型の結晶構造を解析されました。その後、X線回折法と分光学的な手法を駆使し、バリンなどのアミノ酸類、ペプチドや核酸の結晶構造の解明研究を広く展開され、アミノ酸の関連物質の変異原性化合物についても先駆的な構造研究をなされました。

天然有機化合物に関しては、エンメイン、シッカニン、サポゲニンをはじめとして、150を越える化合物の結晶構造をX線結晶構造解析法により解明されました。我国で発見された抗生物質であるカスガマイシンの構造の解明に成功された後、フォルマイシン、カナマイシン、制癌剤として使用されているブレオマイシンなど約50種の抗生物質の構造を解明し、その合成や医薬創製を可能としました。テトラサイクリンなどの100を越える医薬品関連化合物、ナクチン類や包摂化合物の研究も行い、さらに、医薬品のコンフォメーション解析と分子設計の手法開発の端緒も切り拓かれました。

タンパク質の三次元構造に基づく作用機構の解明を目指し、インターフェロンなどの結晶学的な研究を進め、タンパク質分解酵素の阻害タンパク質ストレプトミセス・サブチリシン・インヒビター、および、そのサブチリシンの酵素複合体の結晶構造の解析を成功させました。研究を微生物由来のリボスクレアゼなどにも展開し、タンパク質の機能や分子進化に関する新知見を与え、我国における構造生物学研究のまさしく先駆者でした。

これら一連の研究業績は、国内外で高く評価され、X線解析による医薬品の分子構造ならびに結晶構造の決定により、宮田専治学術振興会学術奨励賞、X線解析法による医薬品類の構造決定とそのシステムの確立により、日本薬学会学術賞が授与されました。このような電子計算機と解析プログラムに関わる活動は、全国大学共同利用の大型計算機センターやシンクロトロン放射光実験施設の設置と運営など、結晶学とその関連分野の発展にも広がりました。先生は、日本学術会議結晶学研究連絡委員会委員、日本学術会議専門委員、文部省学術情報センター・データベース委員会委員、国立国会図書館科学技術関係資料整備審議会委員なども歴任され、日本結晶学会の評議員と会長を務められ、結晶学、構造科学と情報科学の進展に尽されました。

終わりにあたり、名誉教授飯高洋一先生には、4月1日付けで「従四位」「瑞宝中綬章」の叙位叙勲を賜られましたことを申し添え、ここに先生のご逝去を悼み、先生のご冥福をお祈り申し上げます。

(大学院薬学系研究科)

EVENT LIST

行事名	日時	場所	連絡先・HP等
東文研セミナー 探偵雑誌から武俠映画まで： “環球出版社”と“女飛賊黄鶯”(1946-1962)	7月5日(水) 13:10~	赤門総合研究棟7階 738番教室	東洋文化研究所 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/ 大木 康 教授 oki@ioc.u-tokyo.ac.jp
東文研定例研究会 春秋三伝婚姻記事の比較研究試論	7月6日(木) 14:00~	赤門総合研究棟 地下1階 第2演習室	東洋文化研究所 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/
バイオエンジニアリング専攻開設記念講演会・式典	7月6日(木) 15:00~	工学部2号館大講堂	大学院工学系研究科 バイオエンジニアリング専攻事務室 Tel: 03-5841-1673 Fax: 03-5841-1674 E-mail: office@bioeng.t.u-tokyo.ac.jp http://www.bioeng.t.u-tokyo.ac.jp
東文研セミナー「歴史とは何か？」 What is History - Case of South East Asia-?	7月6日(木) 16:00~	教育学部1階大会議室	東洋文化研究所 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/ 白石さや(教育学研究科) : s-shrsh@p.u-tokyo.ac.jp 羽田 正(東洋文化研究所) : haneda@ioc.u-tokyo.ac.jp
公開講演会 身体・性差・ジェンダー —生物学とジェンダー学の対話— ※1338号参照	7月8日(土) 12:30~	日本学術会議講堂	日本学術会議事務局企画課公開講演会担当 〒106-8555 東京都港区六本木7-22-34 TEL : 03-3403-1906 FAX : 03-3403-6224 E-mail : info@scj.go.jp URL : http://www.scj.go.jp
サウジアラビア—日本国交樹立50周年記念 ファイサル・トラッド大使講演会 「サウジアラビアとイスラム—寛容と多文化」	7月10日(月) 16:20~	数理科学研究科棟大講義室	教養学部等事務部 Tel: 03-5454-6015 pro@adm.c.u-tokyo.ac.jp
東京大学の海研究—海からの恩恵と災害— ※12ページ参照	7月12日(水) 9:30~	弥生講堂・一条ホール	工学系研究科環境海洋工学専攻 村山英晶 E-mail : murayama@giso.t.u-tokyo.ac.jp Tel/Fax: 03-5841-6514
東文研セミナー 「台湾日本統治期裁判文書」(仮題)	7月12日(水) 13:00~	法学部中会議室	東洋文化研究所 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/ 連絡先: 高見澤磨 takamiza@ioc.u-tokyo.ac.jp
東文研セミナー 「台湾法の調べ方」	7月13日(木) 13:30~	赤門総合研究棟 地下1階 第2演習室	東洋文化研究所 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/ 連絡先: 高見澤磨 takamiza@ioc.u-tokyo.ac.jp
国際シンポジウム From Genes to Cognition. -遺伝子から認知へ-	7月14日(金) 13:00~	医学部 教育研究棟13階第6セミナー室	http://www.m.u-tokyo.ac.jp/
観蓮会 (花園自治連合会主催)	7月15日(土) 5:00~10:00	緑地植物実験所内(JR総武線 新検見川駅より徒歩約20分)	地元自治会もしくは緑地植物実験所へ。 問い合わせ専用PHS : 080-5581-5060 (つながらない場合は、TEL : 043-273-8326) E-mail : aenoyan@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp 技術職員 榎本
海洋研究所中野地区一般公開 ※15ページ参照	7月15日(土) 12:00~	海洋研究所	海洋研究所 電話03-5351-6342(代表) http://www.ori.u-tokyo.ac.jp/info/event/uminohi2006/ 平松一彦助教授 khiramatsu@ori.u-tokyo.ac.jp
2006年CREP国際会議 —「比較の中の東アジア地域主義」 ※1338号参照	7月15日(土) 13:30~ 7月16日(日) 9:00~	本郷キャンパス 小柴ホール (理学部一号館)	社会科学研究所 CREP事務局 TEL : 03-5841-4874 FAX : 03-5841-4905 E-mail : crep@iss.u-tokyo.ac.jp http://project.iss.u-tokyo.ac.jp/crep/confj06.htm
海洋研究所大館地区一般公開 ※15ページ参照	7月17日(月) 10:00~(海の日)	国際沿岸海洋研究センター	海洋研究所 電話03-5351-6342(代表) http://www.ori.u-tokyo.ac.jp/info/event/uminohi2006/ 平松一彦助教授 khiramatsu@ori.u-tokyo.ac.jp
東京大学・日本経済新聞社共催公開シンポジウム 「課題先進国日本 —課題解決のために今何をすべきか—」 ※13ページ参照	7月20日(木) 13:30~	安田講堂	サステイナビリティ学連携研究機構 特任教授 浅尾 修一郎 TEL 03-5841-7937
東文研ワークショップ 日本近世貨幣史の再検討	7月21日(金) 10:00~	東京大学山上会館 001号室(地階)	東洋文化研究所 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/ 黒田明伸 kuroda@ioc.u-tokyo.ac.jp
HYI Alumni Meeting in Japan 2006 : 歴史学とアジアの近代的学問編成	7月22日(土) 13:00~	駒場キャンパス18号館 1Fホール	アメリカ太平洋地域研究センター seminar@cpas.c.u-tokyo.ac.jp http://www.cpas.c.u-tokyo.ac.jp/
国際シンポジウム Frontiers of Human Brain Imaging. -脳画像最前線-	7月24日(月) 13:00~	医学部 教育研究棟13階第6セミナー室	http://www.m.u-tokyo.ac.jp/
第52回小石川植物園市民セミナー 「夏の植物観察会」 ※16ページ参照	7月29日(土) 13:00~	理学系研究科附属植物園日光分 園(日光植物園)庁舎前に集合	理学系研究科附属植物園 杉山宗隆助教授 TEL: 03-3814-0368 E-mail: koishikawa-koenkai@koishikawa.gr.jp
日独学生交流セミナー2006	募集期限: 7月31日 開催日: 9月7日~22日	東京とその周辺	幸田 薫 教授 koda@boz.c.u-tokyo.ac.jp http://deutsch.c.u-tokyo.ac.jp/nichidoku/boshu06.htm
行事名	開催期間	場所	連絡先・HP等
駒場博物館特別展 「聖書に生きるトローラーの成立からユダヤ教へ」 ※1337号参照	5月25日(水)~7月23 日(日) 10:00~18:00開館 毎週火曜日 休館	駒場博物館1階 美術博物館展示室	問い合わせ先: 駒場博物館 TEL:03-5454-6139 FAX:03-5454-4929 HP: http://tdgl.c.u-tokyo.ac.jp/~bihaku/2006.html
高校生のための金曜特別講座(夏学期)	4月14日(金) ~7月7日(金)	教養学部 11号館2階1106教室	http://high-school.c.u-tokyo.ac.jp/index.html
法学部連続講演会「高齢化社会と法」※1334号参照	5月13日(土) 6月17日(土) 7月15日(土)	法学政治学系総合教育棟101教 室(通称:法科大学院ガラス棟)	e-mail:icclpbloc@j.u-tokyo.ac.jp FAX.03-5805-7143
特別展示『時空のデザイン』展	7月22日(土)~10月9 日(月・祝) 月曜休館(祝日の場 合開館、翌日休館)	総合研究博物館	総合研究博物館 テレホンサービス ハローダイヤル 03-5777-8600 Fax. 03-5841-8451
新規収蔵展示 サンゴ礁の貝類—川口四郎博士コレクション	7月22日(土) ~10月9日(月・祝日)	総合研究博物館	総合研究博物館 テレホンサービス ハローダイヤル 03-5777-8600 Fax. 03-5841-8451

Contents

特別記事

- 02 環境安全本部 安全は教育研究の大前提
- 04 東京大学ポータルサイト (UT-Portal) テスト運用開始!

NEWS

一般ニュース

- 06 「本郷キャンパスにて危険物安全週間消防演習が行われる」
- 07 名誉教授の称号授与

部局ニュース

- 08 特別講義「Moments of Discovery」を開催
- 09 附属植物園で学生・教職員の交歓会が開かれる
- 09 「ご父兄と教養学部長との懇談会」開催される。

コラム

- 10 Flags運動部紹介 No.17
- 11 調達本部です 第11回
- 11 噴水 附属中等教育学校の2年生が遠足で鎌倉へ

INFORMATION

シンポジウム・講演会

- 12 東京大学の海研究－海からの恩恵と災害－のご案内
- 13 東京大学・日本経済新聞社共催公開シンポジウム『課題先進国日本－課題解決のために今何をすべきか－』

募集

- 13 第4回東京大学学生発明コンテスト
- 14 2006年度 第9回年次シンポジウム－CSIS DAYS 2006－へのお誘い

お知らせ

- 15 海洋研究所「一般公開」のお知らせ!
- 16 東京大学音楽部管弦楽団サマーコンサート2006のお知らせ
- 16 第52回小石川植物園市民セミナーのご案内

訃報

- 17 飯高洋一名誉教授

18 EVENT LIST

淡青評論

- 20 地下での研究

◆ 表紙写真 ◆

東京大学ポータルサイトトップ画面 (4ページに関連記事)

編集後記

この号が配付される頃には、ワールドカップも終盤を迎えていることと思います。サッカーファンにとっては少しさびしく、サッカーに興味がない人にとっては、やれやれ、といったところでしょうか。この号の入稿日は、おりしも6月23日早朝の日本対ブラジル戦の当日でした。入稿前日はいつも作業が深夜に及ぶため、学内広報スタッフはなるべく早く(かつ正確に)仕事を終わらせるべく、これまでにない集中力を発揮しました(もちろん、いつも頑張ってますが)。今回見せた集中力を活かし、これからも誌面の充実に努めてまいりますので、学内広報をよろしく願いたします!(と)



七徳堂鬼瓦

地下での研究

東京大学 宇宙線研究所 神岡宇宙素粒子研究施設は、神岡鉱山の地下に実験施設を持つ。日本国内の鉱山は減少の一途をたどり、神岡鉱山も数年前に鉱石の採掘はやめてしまった。しかし、「地下」の安定した環境、硬い岩盤という特質を生かして、地下鉱山を新たな目的のために利用しようということが近年盛んに考えられはじめている。スーパーカミオカンデは地下1000mの場所(とは言ってもアクセスは水平のトンネルを1.7km入るだけ)にあり、宇宙や素粒子の研究を行っているが、地下に作った理由は宇宙線によるノイズを避けるためである。同様の理由で建設された東北大学の実験装置カムランドは、原子炉や地球内部からのニュートリノを捉えている。地下は地表と比べて非常に振動が小さいため、高感度の重力波検出装置を地下に建設して高密度天体の衝突などを捉えようとする研究も計画されている。また、地震研究所や京大防災研究所が中心となって、硬い岩盤に固定した鏡がどのように振動するかをレーザー干渉計によって測定し、地球のコアの振動や地震による永久歪みを測るといった研究も進められている。

神岡鉱山は飛騨片麻岩という硬い岩でできており、そこに穴を掘削し岩自身を圧力容器として使用することも考えられている。民間が行っている研究だが、天然ガスを高压で貯蔵する施設、安い深夜電力を利用して圧縮空気として電力を蓄積する施設、などの試験的な研究が行われている。また、地下に気密室を作って減圧し、「高地トレーニング」が地下でできるという施設もあったりする。

長年にわたる鉱石採掘の経験から坑内での安全は完備されており、安心して研究することができる。地下を利用した研究は、他の分野でも新たな展開が期待できるかもしれない。すこし考えてみてはどうだろうか。

(宇宙線研究所神岡宇宙素粒子研究施設 中畑 雅行)

(淡青評論は、学内の教職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

[訂正]

学内広報において、一部誤りがありましたので訂正いたします。

関係部局、関係者の皆様に深くお詫び申し上げます。

No.1337 (2006.5.31)

2ページ右段4行目

誤：今年で加盟60周年になる国連……

正：今年で加盟50周年になる国連……

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1339 2006年6月28日
東京大学広報委員会

〒113-8654
東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学総務部広報課
TEL：03-3811-3393
e-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
<http://www.u-tokyo.ac.jp>